

第1分科会 吉田松陰に学ぶ

ねらい 『学は人たる所以を学ぶなり』の言葉を遺された吉田松陰先生の生き様、考え方を学び、幼児教育の在り方について考える。

指導者 松陰神社 宮司 上田俊成様



○松下村塾とは

私立学校であるが、時間は自由。集団での学びと個別の学びがあり、身分も問わなかった。松陰先生は兵学を講義されると共に、愛と情と至誠をもって青年の教育に精魂を打ち込み、活きた人材の育成に努められた。

もとは古小屋で八畳一室のみであったが、塾生の増加に伴い、後師弟の労役により十畳半と土間一坪を増築された。二年半の短期間に92名塾生が通い、有為の人材を多数輩出した。



○松陰先生が大切にしていたこと

① 『人としてどう生きるべきか』

論文「学校を論ず、附作場（がっこうをろんず、つけたりさくば）」を書いている。



内容：技術者をつくる。同時に作業場もつくり、実践も大切にする。

幕府を倒して、日本を背負って立つ人間を育てたい。互いに話し合い実践していた。

② 『日本人としてどう生きるべきか』

アジアにおいてタイと日本以外が植民地化される中で欧米に対してどう対処するかを考えよう。





○松下村塾の名の由来

松下村塾は、塾が存在した松本村という地名にちなんだ名称である。

松陰先生が書かれた「松下村塾記」では、「学びは人たる所以を学ぶなり。塾係くるに村名を持ってなす。誠に・・・」

意識すれば、「学問本来の目的は人がどう生きるべきかを探ることにある。塾には松本村の名を冠する。実際にこの村の人々に、家では父母に孝をつくして年長者によく仕えさせ、外では主君に忠義を尽くして他人に信義を尽くさせるならば、村名を塾に冠してもその名に恥じることはない」という具合になる。

つまり現代的に言えば、松本村という地域社会において道徳的に優れた人間を育てることが第一の目的とされている。

○研修を終えて

今回の研修では、特別に松下村塾の講義室で講話を聞かせていただきました。

参加された皆様方も緊張されながらゆっくり畳に上がられ、室内の雰囲気興味深く感じていらっしゃいました。

江戸時代の寺小屋より幼児教育が盛んに行われ、松下村塾の教育の基礎が作られたとのこと伺いました。

今も昔も、教育とは人間形成の基礎を作る大切なことだと再認識しました。と同時に、松陰先生から、お力をいただいたように思います。

また、松陰神社内を観光ガイドさんに案内していただき、建造物の説明や松陰先生の教育に対しての思いなどを学ぶことができました。

日差しの強い日でしたが、境内には大きな松の木があり、木陰が多く過ごしやすく、貴重な体験ができ、感謝の気持ちで一杯でした。ありがとうございました。